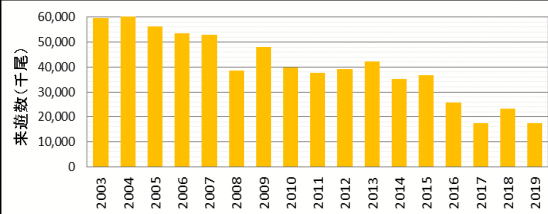


秋サケ資源対策の概要【2019(R1)年度】

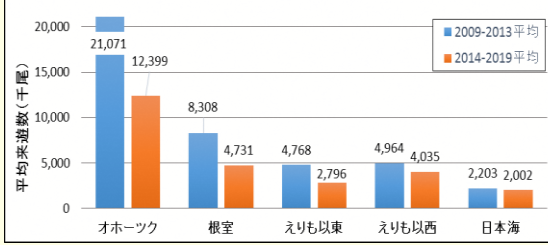
秋サケ資源対策協議会

秋サケ資源の現状、課題

- 北海道の秋サケ資源は減少傾向で2016(H28)年以降3千万尾を下回り2019(R1)は2千万尾を下回る状況



- 2014(H26)年以降は全道の各海域で大幅減少



資源の減少要因

- 本道沿岸や沖合の海洋環境
 - ・ 降海してからオホーツク海(岬海域)回遊までの海洋環境の影響
- ふ化放流事業における
 - ・ 海水温の大きな変動により放流適期の判断が難しくなっている
 - ・ 健苗生産に必要な良質卵不足や施設老朽化などの影響

秋サケ資源対策の基本的な考え方

サケの生活史は大部分が放流後の自然界
資源対策 → 幼稚魚動態の把握によるふ化放流

【基本方向】

- 2012(H24)年「秋サケ資源対策会議」基本方向
 - ・ 海域環境に合わせた適切な放流時期
 - ・ 地域ごとの稚魚の生産体制の見直し

アップデート
更に精度を高める
ことが必要!

- 放流の時期と適水温のマッチング
- 効果的かつ持続的なふ化放流の推進

資源回復に向けた主な検討事項

- 年ごとに大きく変動している沿岸環境でも資源回復に必要な
環境変動に強いふ化放流の取組
- 来遊状況に左右されない資源づくりに必要な
**効率的な親魚捕獲や
安定的な良質卵確保の取組**

主な秋サケ資源対策

1. 秋サケ資源造成や資源利用の検討

- 沿岸海況の把握強化による的確な適期推定に基づく集中放流を目指す一方で、従来の適期と考えられる期間内の分散放流、汽水湖を活用したリスク軽減放流の試験
- 十分な親魚確保に向けた漁場設定や捕獲計画の見直し検討 など

2. 調査研究等の推進

- 調査研究や技術改良の推進
 - ・ 沿岸や沖合での調査研究の強化
 - ・ 水温予測の研究、来遊予測の向上
 - ・ 耳石標識放流調査の拡充 など

3. 民間ふ化放流事業の改善

- (1) ふ化放流技術の向上等
 - 技術者の確保と資質向上
 - **沿岸海況モニタリングの強化** ※
 - 関係機関と連携した放流手法の効果検証
 - 環境変動に強い稚魚の育成
 - ・ **親魚の十分な捕獲と洗卵等の防疫対策の強化による良質卵の確保** ※
 - ・ **遊泳力を強化するDHA高含有餌料の給餌** ※ など
- (2) ふ化放流事業の安定継続
 - **低密度飼育など健康な稚魚生産が可能なふ化施設、効率的な親魚確保に必要な捕獲施設等の整備** ※
 - 捕獲採卵等の事業運営の効率化や安定化 など 《※:早急な着手が必要な取組み》